

### 平成23年度 中間報告

#### 研究テーマ

## 学校と地域で生徒の ライフマネジメント力を高める

対話・協働・変革による学校づくり  
つながり・ともに創り・より良く変える



地域協働学校  
新宿区立四谷中学校

## ライフマネジメント力を 高める3つのプロジェクト

プロジェクトA：キャリア教育系

プロジェクトB：生活指導系

プロジェクトC：学習指導系

### ライフマネジメント力を高めるために

#### 学校経営5の方向から取り組む

- ①課題探求型の取組 ②地域協働・奉仕・体験
- ③読書・言語活動の充実 ④自主・自律・自治活動
- ⑤小中連携

#### 学校運営協議会と地域とともに取り組む

生徒会との連携、キャリア教育体験学習との連携、  
防災教育奉仕活動との連携。  
学校との協働・地域力、保護者組織（PTA）の  
強化を目指す。

### ライフプランの立案

### ライフスキルの育成

#### 人間性、可能性、能力を引き出す キャリアプログラム開発

- 働くことの意義や喜び、苦勞などの認識、望ましい職業観・勤労観の育成
- 社会性の向上、自己の生き方の構築
- 自己の進路を主体的に考え、個性・適性を活かした進路選択の促進
- プロジェクト型学習の発想を取り入れ、現段階でのゴールを設定し、それを達成するためのビジョンを構築

#### 「四谷学」の見直しと再構築

- 職業という観点を中心にした、本校に適したキャリアプランの展開
- 家庭・学校・地域交流を通じた自己理解の深化
- 自己の進路を主体的に考え、個性・適性を活かした進路選択の促進
- 1年次に職業調べ、職業インタビュー、職場訪問などで学ぶこと・働くことの意義や役割、職業への理解の深化
- 2年次に44カ所の事業所での職場体験を実施
- 2年次後半から確かな将来設計に基づいた進路選択

#### 3年間の「進路ノート」作成

- 1年次から使用しているファイルにポートフォリオとしての機能を持たせ、情報を収集
- 職場訪問後の新聞、職場体験後の小グループによる体験の報告などの資料を積極的に活用
- 諸活動を通じた課題対応能力の育成

### 学校運営協議会

読書・言語活動	学校読書支援、四谷文庫の設置など、学校図書館の機能充実活動
課題探究力	放課後や土曜日学習場の設置（検定対策・学習補充＜PTAとの協力＞）
地域協働	保護者・地域・生徒・教員との対話・協議の場の設定

#### 実践

##### 各部会の活動

- 支援部
  - 道徳授業地区公開講座の地域人材講師支援活動
  - PTAを中心にした放課後学習の場の設定（検定対策・定期考査対策）
- 連携部
  - 1年生の地域ボランティア活動を支援
  - セーフティ教室の地域連携強化支援
- 学校評価部
  - 生徒アンケート・保護者アンケート・地域アンケート作成
  - 各種アンケートの結果を分析・協議し、学校関係者評価実施

##### 全体プロジェクト

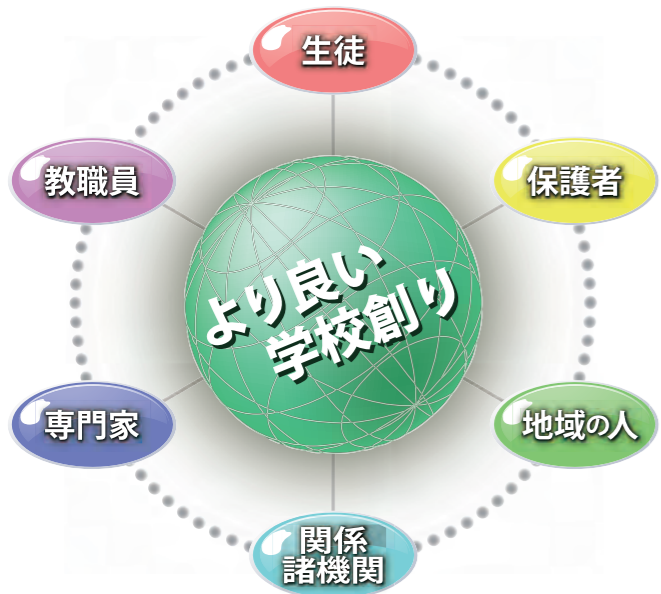
- 学校運営協議会を離れた四谷地区学校応援団の組織化
- 職場体験事業所の確保と調整、職場訪問学習プログラム実践
- 12月に生徒会役員、1月に教員と学校評価についての対話や協議の実施

#### 成果

- ・すずかけ文庫（地域文庫）開設による「蔵書の拡大」「生徒の読書意識の高まり」「子どもの読書活動推進への地域の意識向上」
- ・職場体験、事業所拡大、ミニコミ冊子作成、全校生徒・地域・学区小学校への配布
- ・道徳授業地区公開講座による地域参加者増加、地域と道徳教育についての協議
- ・生徒の学習支援者の拡大（保護者・大学生）

#### 継続する目標

- ・分科会組織と学校組織との一致
- ・学力補充対策、数検・英検教室の効果的実施（PTAとの協力）
- ・小中学校運営協議会との連携推進、広報活動の充実
- ・地域防災と学校の防災教育との連携強化
- ・PTA・教職員・地域・生徒との協働拡大（学校の課題を解決する取り組み）



協働による学校改革の概念図

#### 生徒一人ひとりの能力と可能性の追求

- キャリアガイダンスと自己キャリアマップの作成
- ソーシャルスキルとコミュニケーション力の育成
- コンピテンシー（見通しのあるできる力）の育成
- 個人プロフィール（特性）の作成で良さを伸ばす

## プロジェクトA

## キャリア教育系

## プロジェクトC

## 学習指導系

### 豊かな心と社会性の育成

#### 社会性の育成（ソーシャル・スキル・トレーニングの実施）

- ソーシャル・スキル・トレーニングの実施
- 年度当初の学級での構成的エンカウンターの実施
- レク活動や班活動を通して、他者理解や協働活動の取り組み
- 学期末等で実施した学級アンケート
- 職場体験や職場訪問での接遇の学習
- 学校運営委員会と連携した年間10回の地域でのボランティア活動
- QUテストに基づく、生徒の社会性の実態調査
- QUテストの分析による生徒への手立ての検討

#### 人権感覚との思いやりの心の陶冶

- 思いやりの心の基盤となる生徒自身の心身の健康の保持推進「ふれあい月間」での「いじめに関する生徒アンケート」を実施
- 3年生を対象とした保育実習の実施
- 新苑学級との交流授業の実施
- 地域でのボランティア活動を年間10回実施

#### 「あじみそ・マモル」の実現

- 生徒会朝礼を通じた生徒会本部及び各委員会の活動
- 学級委員や生活委員を中心とした服装点検、チャイム着席の点検強化週間の実施
- 生徒会朝礼でのパワーポイントや書画カメラを活用した広報活動の実施

### 能力と可能性の育成

#### ICTの活用と授業改善

- ICT機器の校内研修会の実施（eライブラリ、成績管理、各種ソフト、実物投影機の使い方）
- 学習教室の実施（eラーニングを活用した学習活動）←PTAとの協力
- 実物投影機の授業での活用拡大
- 授業研究週間の実施

#### 新学習指導要領への対応

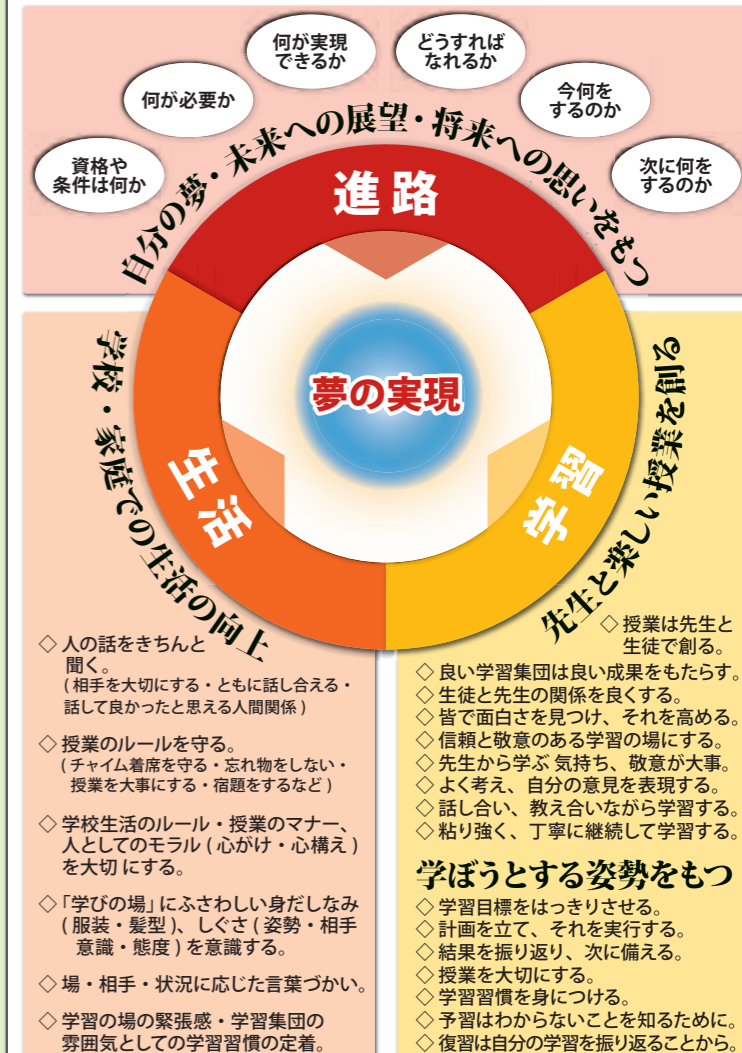
- 週29コマ、新学習指導要領の指導内容、週時数の先取り実施
- 「学習ガイド」（シラバス）作成
- 新学習指導要領の評価方法の校内研修会実施

#### 各教科の言語活動の充実

- 朝読書活動の年間を通しての実施
- ブックトーク、読み聞かせの校内研修会実施
- 四谷図書館によるブックトークの実施（1年生・2年生）
- 図書室の整備活動（四谷図書館、子ども図書館、NPO法人の協力）
- すずかけ文庫の設置

#### その他

- 数検、英検教室の実施（PTAとの協力）
- 小中連携授業の試行実施



# プロジェクトA

## ✓ 成果

### 人間性、可能性、能力を引き出す キャリアプログラム開発

- 本校の大きな教育的資産である地域との連携については学校運営協議会がパイプとなり、円滑な協働態勢が図られ、それが職場訪問、職場体験の成功につながった。
- 朝礼・保護者会・また都での職場体験の発表は社会形成能力を高めた。

### 「四谷学」の見直しと再構築

- 1年次にボランティア活動などを通して、地域社会に着目させた。
- 地域協働学校であることから、学校教育に占める地域の位置づけも大きいことを認識させた。
- 2年生では職場体験実施後に生徒対象にアンケートをとった結果、以下の3点が成果としてあげられた。
 

1 自己の課題研究に取り組んだ	72%
2 働くことの意義を考えた	95%
3 自己の将来や目指す姿を考えた	87%

### 3年間の「進路ノート」作成

- 1年生では様々な資料を個々の生徒が入手できた結果、それぞれが個性的なものとなった。
- 2年生では職場体験の資料を収集できた。



1年調べ学習  
職場訪問準備段階で学習スキルを身につける



1年職場訪問  
事業所でのインタビューにより言語活動の力を高める



2年職場体験  
働くことの意義と自己の将来や目指す姿を考える



2年職場体験  
成果を朝礼・保護者会、都で発表、社会参画の意識向上を促す

### 継続する目標

- ◇ 生徒主体の教育活動の開発・検討
- ◇ コミュニケーション力とチームビルディング力の育成
- ◇ 自己課題の設定、自己選択・判断・決定・責任の指導
- ◇ 体力の向上を目指すスポーツの推進
- ◇ 「生きる力」を支える食育の充実

# プロジェクトB

## ✓ 成果

### 社会性の育成 (ソーシャル・スキル・トレーニングの実施)

- 地域の人々との関わり方、地域社会への貢献を体験的に学んだ。
- 人とのつながりや関係性、人の気持ちの理解に向上が見られた。
- Q Uテストにより生徒の実態や変容を確認。かかわる力の向上が見られた。

### 人権感覚との思いやりの心の陶冶

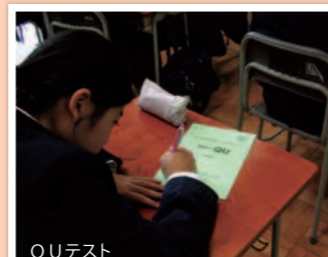
- 異年齢の方との交流を深め、思いやりの心の育成ができた。参加後に、ふりかえりを行い活動の更なる定着を図った。
- 年2回のふれあい月間にアンケートを実施。スクールカウンセラーやふれあいサポーターと連携し、悩みを相談しやすい環境を設定した。

### 「あじみそ・マモル」の実現

- 自治活動(生徒会活動)の活性化。(中央委員会を通した各委員会への働きかけ等)
- 各委員会による強化月間の取り組みが広がった。
- 生徒会朝礼での ITC を活用した広報活動が推進できた。

あ・・・挨拶をしよう  
じ・・・時間を守ろう  
み・・・身だしなみをキチンとしよう  
そ・・・掃除をしよう。

マ・・・マナーを守ろう  
モ・・・モラルを守ろう  
ル・・・ルールを守ろう



Q Uテスト  
配慮と関わり方のスキルについて分析し、手立てを工夫する



生徒会朝礼  
生徒会本部や委員会の活動を、映像で工夫して伝える



1年次のボランティア活動  
ボランティアを通して地域社会の一員としての自覚を高める



3年保育実習  
ふれあいを通じて自分を振り返り、思いやりの心を育てる

### 継続する目標

- ◇ 生活習慣の改善
- ◇ 問題行動の減少
- ◇ 生徒会の活性化と学校運営参画
- ◇ 奉仕体験活動・地域活動の実施
- ◇ 地域・環境・福祉・国際社会への意識化
- ◇ 特別支援教育を含む、教育相談体制の整備

# プロジェクトC

## ✓ 成果

### I C Tの活用と授業改善

- ソフトや機器の使い方を学び授業への活用を模索。
- 「eライブラリ」は簡単に取り組み自主学习を始めるきっかけとなった。
- 実物投影機の利用で生徒の興味関心や集中力、理解度が増した。
- 他の教科の授業を研究することで、自分の教科を見直す機会となった。

### 新学習指導要領への対応

- 週29コマ実施により新学習指導要領の指導内容を先取りすることができた。
- 週時数が増えたことにより余裕を持って授業内容に取り組めた。
- 「学習ガイド」により各教科の授業内容や評価のポイントが明確になった。
- 新学習指導要領の評価方法の校内研修会を実施し理解を深めた。

### 各教科の言語活動の充実

- 朝読書活動は読書習慣の定着のきっかけとなった。
- ブックトーク・読み聞かせの研修会は方法や効果を理解するきっかけとなった。
- 四谷図書館によるブックトークの実施により、生徒の本に対する興味・関心を広げるきっかけとなった。
- 図書室の整備活動では掲示物やパンフレットの整備などもあり、本に対する興味・関心を深め、より利用しやすい環境となった。
- すずかけ文庫により蔵書が増え、生徒のニーズにも応えられた。



朝読書  
授業規律と学習意欲を高め、読む力、探究心の向上を図る



学習教室  
保護者・学生の協力による学習教室・検定教室で学力向上を図る



図書館充実:  
図書館・NPO法人等と協働、読書と学習の環境を整える



学びのガイド  
新指導要領に対応したシラバスで学習管理力をはぐくむ

### 継続する目標

- ◇ 学習意欲の向上
- ◇ 学習習慣の育成
- ◇ 地域との連携・協働による学力向上(読書・作文・検定資格)
- ◇ 思考力・判断力・表現力の育成
- ◇ 小中連携による能力向上
- ◇ 特別支援教育の重視
- ◇ 特別支援学級との連携

# 新 苑 学 級

プロジェクトA キャリア教育系	プロジェクトB 生活指導系	プロジェクトC 学習指導系
<b>目 標</b>		
自主・自立の態度 生徒の適性、可能性を開発するキャリア教育	自分らしさを大切に、人や社会と関わる力 将来の社会生活に必要な力の育成 (ソーシャルスキル学習)	日常生活・社会生活に必要な基礎学力・基礎体力 一人一人の特性に応じた能力開発
<b>実 践</b>		
職場体験学習などを通して、望ましい勤労観を育成する。  個に応じた学習内容やグループ指導等、学習形態や指導方法を工夫する。  生徒の特性に応じた個別指導計画を作成する。  生徒の生きる力を育てるために保護者との連携を図る。	地域の方々などの自然な挨拶や関わる力を養う。  集団の活動を通して、基本的な生活習慣並びに社会ルールや協力の大切さを体得させ社会で生きる力を養う。  生徒の生きる力を育てるために保護者との連携を図る。	個別指導計画に基づき生徒の特性に応じた指導を行う。  担任として専門性を高め、特別支援教育にも生かす。  朝のランニングや体育の授業などで、基礎学力の向上を図る。
<b>成 果</b>		
職場体験学習などを通して、社会の現状理解が進んだ。  生徒の特性に応じた個別指導計画を作成できた。  進路の自己決定のために保護者との連携を図れたことができた。	集団の活動を通して、基本的な生活習慣や社会ルールや協力の大切さを体得させることができた。  集団の活動を通して、基本的な生活習慣並びに社会ルールや協力の大切さを体得させることができた。	個に応じた学習内容やグループ指導等の学習形態、指導方法の工夫により生徒の能力の伸長を図ることができた。  専門性を高め、特別支援教育にも生かす努力ができた  朝のランニングや体育の授業などで、基礎学力の向上を図ることができた。
<b>継続する目標</b>		
社会の現状を知るにとどめず、勤労とはいかなるものかを理解できるようにする。	様々な教育活動を通して、特性に応じたソーシャルスキルの適切な支援を行う。	個別指導計画の集団での検討と一層の深化を図る。
自主・自立の態度を身につけさせるための検証をより一層深め、個に応じた適切な個別指導計画を作成する。	人や社会と関わる力をさらにつけさせるために、様々な教育活動を通してソーシャルスキル学習をより一層工夫し進める。	個に応じた基礎学力・基礎体力を確実につけさせるために、学習内容とグループ指導などの検証を進める。